

学会の動き

「地盤工学会誌」の編集方針と平成23年度の年間計画

三 村 衛 (みむら まもる)

(株)地盤工学会 会誌部長, 「地盤工学会誌」編集委員長

1. はじめに

昨年の総会で前会誌部長の桑原先生の後任として会誌部長を拜命した。2008年4月号から学会誌名が「地盤工学会誌」に変更されて2年近くが経過し、新名称にも馴染んでいただけたものと思う。地盤工学会誌編集委員会では、「中長期ビジョン／アクションプラン」に謳われている編集方針に則り、読者のニーズをすくい上げ、読みやすく、幅広い層の学会員に役立つ記事を掲載することを念頭に置いた学会誌の編集を心かけている。

2. 学会誌の編集方針

学会誌改革方針については、既報¹⁾に詳しく紹介されており、その方針に沿った誌面づくりが進められている。具体的な留意点として、実務者や一般の方々に密着したテーマを組むこと、読みやすい内容に編集することがあげられる。この原則は平成22年の年間計画²⁾にも反映されている。講座では、若手技術者や学生を主たる対象とした初級講座が2008年の10月号からスタートし、学校で習得する土質力学が実問題にどのように役立っているのかをコンセプトとして、毎回読み切り方式で1年間にわたって掲載された。一般の読者からの評価が予想外に高く、継続的に取り組んでいくことになっている。また、学生編集委員制度を導入し、学生のアイデアに基づいた誌面を編集するなど、職種や年齢を幅広くカバーすることによって、読者のニーズに沿った学会誌を目指している。学会誌の内容について、毎号読者モニターからご意見、ご批判を頂戴している。編集委員会では必ず個々のご意見に目を通し、特集タイトル選定から図面の質に至るまで細かくチェックしている。また取り上げてほしいテーマに関するご意見は、翌年以降の特集テーマ選定に活かすべく、参考資料とさせていただいている。

3. 平成23年度の予定

地盤工学会誌の特集テーマは、1年以上前に編集委員会で審議され、前年に年間計画を公表している。平成23年の特集テーマの年間計画を表一に示す。

一昨年から年2回の支部特集号が新たに編集されることになり、既に中部、関西、九州、北海道の各支部に担当していただいている。支部特集号はその企画から編集までを、学会誌編集委員会ではなく、全面的に支部にお願いしたものであり、それぞれの地域性の色濃く反映された興味深い記事が掲載され、読者モニターからも非

常に高い評価をいただいた。平成23年度は2月号を北陸支部、5月号を中国支部にご担当いただくことになっている。平成23年の年間計画の特徴は、現場や一般の方々に密着したテーマを組む(1, 6, 9月号)、最近注目されている問題(教育・技術の伝承など)に目を向ける(4, 7月号)、地盤工学の最先端の内容や防災に目を向ける(3, 11月号)ということになるかと思う。これらは、「中長期ビジョン／アクションプラン」に従い、平成22年の特集タイトルからの流れを踏襲したものとなっている。

表一 平成23年度の年間計画

月号	特集タイトル
1	市民生活と地盤工学
2	支部特集号① 北陸支部
3	最先端の数値解析技術
4	「土質・基礎」の学び方
5	支部特集号② 中国支部
6	地盤施工のプロジェクト管理
7	資源の有効活用
8	地盤環境プロジェクトにおける環境影響評価の高度化と適用に関する研究委員会
9	土構造物, 基礎構造物の維持管理
10	第14回アジア地域会議(香港)
11	地盤災害と復旧
12	第46回地盤工学研究発表会報告

4. おわりに

学会誌編集委員会は、時宜性、読者の興味、読みやすさを念頭に置いた地盤工学会誌の編集を心かけている。また独善的にならないよう、各支部から推薦される読者モニターの声を聞き、幅広い年齢層、業種の会員のニーズに応えるべく編集作業に努めている。特集のテーマとして取り上げる内容については、読者の代表という立場で選定し、編集するように努めたいと考えている。よりよい誌面づくりに向けて、読者の皆様のご指導、ご鞭撻をお願いする次第である。

参 考 文 献

- 1) 永瀬英生：地盤工学会誌の新しい編集方針と平成21年の年間計画, 地盤工学会誌, Vol. 56, No. 3, pp. 34~38, 2008.
- 2) 桑原文夫：地盤工学会誌の編集方針と平成22年の年間計画, 地盤工学会誌, Vol. 57, No. 3, p.40, 2009.

(原稿受理 2010.1.12)